

名品コレクション展 I（後期）

2025 年 7 月 5 日（土）～ 9 月 7 日（日）

エコール・ド・パリ フランスという場所

赤い壁の部屋にある絵の多くは、今からおよそ 100 年前にかかれた絵です。フランスのパリには、たくさんの画家が集まり、互いにはげまし合いながら、自分の絵を追い求めました。

多くの画家は、パリのモンマルトルという場所に暮らしていました。モンマルトルで生まれ育ったモーリス・ユトリロは、モンマルトルの景色をよくかいています。ユトリロがかいた「ノルヴァン通り」は、モンマルトルにある道の名前です。ノルヴァン通りを進むと、モンマルトルで有名な、サクレ・クール寺院という建物があります。ユトリロの《ノルヴァン通り》にも、サクレ・クール寺院がかかれています。見つけてみてください。

パリにあるモンパルナスという場所にも、多くの画家が暮らしました。このモンパルナスに集まった画家たちのことを、フランス語で「エコール・ド・パリ」と呼ぶことがあります。シャガールやスーチンはロシア（今のベラルーシ）から、モディリアーニはイタリアから、パスキンはブルガリアから、キスリングはポーランドからと、さまざまな国から、さまざまな画家がこのモンパルナスに集まりました。その中には、日本人の画家もいました。藤田嗣治は、日本人の中でも、いち早くパリに行って、パリの人気者になりました。稲沢市出身の荻須高徳も、自分の目で見たフランスの風景をたくさんかいています。

同じ時代に、フランスに集まった彼らの絵をながめてみてください。個性ゆたかな作品から、それぞれの画家が、「自分だけにしかできる絵」を目指していたことを感じてもらえたらうれしいです。

現代の美術

ニューヨークの日本人作家たち

白い壁の部屋には、大きな作品がたくさんあります。特に今回は、今から 70 年ほど前に、アメリカのニューヨークという地に行った日本人アーティストたちの作品を紹介しています。その中に、愛知県で生まれたアーティストが 3 人います。桑山忠明、荒川修作、河原温です。

桑山忠明《無題》1969 年

この作品には、ある物や人、景色はかかれていません。黄色と白、銀色のフレームでできた作品の前に立って、みなさんは、どんなことを感じるでしょうか？ 遠くから見たり、いろんな角度から見たりして、感じることは変わるでしょうか？

荒川修作《35 フィート×7 フィート 6 インチ、126 ポンド No.2》1967-68 年

一番長い壁にかかっている大きな作品。7 枚のパネルでできていますが、1 枚ずつ見てみてください。それぞれに、いろんな言葉が英語でかかれています。これらの言葉から、どんなことをイメージするでしょうか？ 景色を想像してみたり、ストーリーを考えてみたりしてもいいかもしれません。そして 7 枚のパネルには、大きな文字が 1 つずつかいてあります。それらをつなげるとできる言葉は「MISTAKE」。はたして何が「まちがい」なのでしょうか…？

河原温《カム・オン・マイ・ハウス》《私生児の誕生》1955 年

ひし形をゆがめたような形の作品が 2 つ並んでいます。人間の体と何かの部品のようなものが、画面いっぱいにはしめきっています。この作品がかかれたのは、戦争が終わってから 10 年後。絵の中の人間たちは、どんな気持ちなのでしょう？ あるいは気持ちはあるのでしょうか？

メキシコ・ルネサンス 人間のちから

きょうど びじゅつ 郷土の美術 ほり お みのる 堀尾 実

メキシコは 1910 年に、社会のしくみや人々のくらしが大きく
変わるかくめいこと（革命）がありました。芸術家げいじゅつかもこうした世の中の
変化けいげんを経験し、国の歴史を知り、それぞれの見方で人々の姿すがたを
表しました。

ダビッド・アルファロ・シケイロスがかいた絵の母と子のこわ
がる表ひょう情じょうから、2 人には危険が迫っていることがわかります。
力強かかれた母親の腕うでは、子どもを守ろうとする強い思いが感
じられます。シケイロスは、メキシコの人々が経験けいけんしたきびしい
生活や苦しみを知り、絵をかきました。
きたがわたみじ
北川 民次は、1921 年にメキシコに行き、美術学校で先生をし
ました。かかれた男は生徒のひとりです。北川は、男をしっかり
つか
と見て疲れや老いもかくさずにかいています。

わたし
私 たちは人との出会い、別れけいげんを経験すします。生活様式や人々
の考え方によって、その時をどのように過ことごすかは異なります。
しかし、出会いの喜び、別れの悲しみ、いつくしみ、感謝といっ
た思いは同じでしょう。ディエゴ・リベラは、別れの時をかいて
います。亡くなった人が入っている棺ひつぎとともに進む人々の上部
だけをかき、さまざまな人々が一いっしょ緒に静かに歩いていることを表
しています。

ルフィーノ・タマヨは、メキシコの人々に長くつたわる芸術げいじゅつ
みんしゅうげいじゅつ
（民衆芸術）を知ること、線と色が画面で響きあう、タマ
すがた
ヨらしい自由な見方で人の姿を表しました。

フランシスコ・スニガは、メキシコに昔から住んでいる人々
せんじゅうみん
（先住民）の女性をもとにした彫刻ちようこくをつくりました。おな
かのふくらみはわかりますが、布を着せることで体のかたちを
ぬの
あいまいにしています。しずかに両足でしっかりと立つ姿すがたで
す。

まずは、部屋を見わたしてみてください。この部屋にある作品
は、すべて一人の画家が作ったものです。その画家の名前は、
ほりおみのる
堀尾 実。名古屋に生まれた地元の画家として、ぜひ名前を覚え
て帰ってください。

なら
並んでいる作品を見ると、「何をかいた絵なんだろう？」と思
うかもしれません。ほりおみのる
堀尾 実 は、不思議な形を、ただ自由にかい
ているわけではありません。それぞれの絵には、元となるものが
あります。たとえば、《作品 B（2）》という絵は、魚を入れて
おくためのカゴを、いろんな角度からよく見てかいているので
ほりおみのる
す。堀尾 実 は、あるものをいろんな角度で見たときの形や色、
ものの動き、ものを見るときに自分の目にはどんなことが起こっ
ていのだろう？ということを感じとり、絵に写そうとしていま
す。

「フォト・コラージュ」という作品をぜひ見てみてください。
これは、1 枚の写真をばらばらに切ってから、再ふたびはりつけ
ています。ただ、パズルのように元の写もと真しやしんにもどすのではなく
て、互いのかけらの間を自由にあけて、はりつけています。こ
の作品を見たとき、みなさんはどんなところに注目するでしょう
か？ばらばらになる前の写そうぞう真を想像するでしょうか？かけらの
間にできた白い線に注目するでしょうか？ばらばらにはり合わさ
れてできた景色を面白いと思うでしょうか？注目するところを変
えると、見える景色も変わるのではないのでしょうか？その目の動
きをぜひ楽しんでください。